

## 令和7年度第3回和光市公民館運営審議会 会議録

開催日	令和8年3月25日(水)	開会時間	14:00
会場	中央公民館 会議室1	閉会時間	15:30
委員の出席状況	堀 尚人 欠	野口 章 出	◎ 泉 常夫 欠
	藤原 啓 出	岸 佐登美 出	鈴木 紘子 出
	高野 靖子 出	長谷川 香月 欠	稲津 加須美 出
	伊藤 友子 欠	○ 田中 章子 出	川口 慶真 出
	近藤 知世 出	森田 美代子 出	◎議長 ○副議長
傍聴者	1名		
事務局	石川教育長、横山教育部長、細野生涯学習課長、山本生涯学習課課長補佐、長峰中央公民館長、江口坂下公民館長、南雲南公民館長、中央公民館磯野主査、坂下公民館安達主査、南公民館平山主査		
議題	1 開会 2 教育長挨拶 3 議題 (1) 令和8年度公民館事業計画(案)について (2) 第2期和光市教育振興基本計画及び令和8年度和光市教育行政アクションプラン(案)について (3) 館内飲食について (4) その他協議事項 ① 公民館で初めて取り組んだ・計画した講座やイベント等について ② これからの公民館はどうあるべきか 4 連絡事項 5 閉会		
配布資料	次第 資料1 令和8年度公民館事業計画(案) 資料2-1 第2期和光市教育振興基本計画 資料2-2 令和8年度和光市教育行政アクションプラン(案) 資料3 和光市公民館での飲食ルール 資料4 公民館で初めて取り組んだ・計画した講座やイベント等		

### 1 開会

会議公開(市民参加条例第12条第4項の規定)及び会議録(要点記録)公開について説明

### 2 教育長挨拶

### 3 議題

泉議長欠席のため、和光市公民館設置及び管理条例施行規則第10条第3項の規定に基づき、田中副議長が議長職務を代理し、議事進行を行う。

#### (1) 令和8年度公民館事業計画(案)について

○田中副議長

事務局から説明をお願いします。

○事務局

中央公民館→坂下公民館→南公民館→三館共催の順で説明

○田中副議長

三館ともそれぞれカラーが違うので、事業計画案についてもそれぞれの内容でしたが、人を集めることも大事だけれど、中の学習をもっと充実して、それを地域に還元していくという中央公民館長の言葉にすごく感銘を受けました。そのように公民館がなっていってくれることを一番願っています。事業計画案について、何かご質問があったらお願いします。

○高野委員

以前、中央公民館で定期的に手話教室があったんです。私もそれに参加してすごく役に立って。手話って東京と大阪で違うんです。仕事で海外が多いんですが、通じるわけないんですけど、手話教室を思い出してやると動作でほとんど通じるんです。だから手話教室ってどこでも役に立つかなと思っています。どこかの館で手話教室を定期的を開いてくれるとありがたいと思います。

○中央公民館長

今年度は社会福祉協議会で手話教室を開催していました。中央公民館で実際に手話講座をやっていたのは、おそらく8、9年ぐらい前。現在中央公民館では手話サークルさんが活動しています。週1回定期的に活動していて、公民館の文化祭の開会式に手話を交えて参加していただいています。今、高野委員からお話があったように、やはり手話は非常にコミュニケーションツールとして大事なものであると認識しています。今年度の事業計画には入れていませんが、手話サークルさんにも相談しながら、また社会福祉協議会でも定期的にやっているようなのでそちらと相談しながら、公民館でやるのかどこでやるのか、いずれにしても、和光市内で手話が学べる環境を整えられるように調整していきたいと考えています。

○野口委員

中央公民館で公民館表彰の授与を狙っているということで、期待しています。ぜひ表彰を受けていただけたらと思います。それから南公民館なんですが、中庭があるということで、色々工夫して花火とか、積極的にやってすごいなと思いますので、これからも大いにやっていただければと思っています。

○川口委員

1つ目は中央公民館の一般対象事業の2「相続のあれこれ」について。来年度、社会福祉協議会で終活セミナーみたいなものを行うという話を聞いて、それとの重複があるかどうかというところ。あれば事前に調整した方がいいかと。分野がかぶってしまうと、前も聞いたからこっちはいいかなになってしまうもったいないと思うので、そこだけ社協と連携した方がいいかなと思いました。2つ目は、先ほど手話の話で、行政の仕組みでやむを得ないところもあるかもしれないけれど、単年度でこの事業をやりますというより

少なくとも2、3年後、中長期計画の中で、手話サークルは続けてやるのか、3年間のうち2年間やるのか、単年度なのかというように中長期的なビジョンで見えていただけるとありがたい。あくまで要望ですが、よろしくお願いいたします。

○中央公民館長

まず1つ目の「相続のあれこれ」につきましては、今年度は2月28日に実施しました。10名くらいお申しいただいて、当日質問がかなり出たため、別日に来ていただいて、相談を受けるという形を取りました。相続に対して、ご本人様、ご家族の関心が非常に高く、皆さん真剣にお話を聞かれていて、他人事ではない、自分の事として講習を受けていたと担当からも聞いています。今、川口委員からお話があったように色々なところで終活セミナーをやっていると思いますが、中央公民館としては、相続に関する部分にスポットを当てて実施していこうと思っています。今後、そういう情報が入り次第、社会福祉協議会やその他関係の部門、市の部門にもお互い情報を流しながら、重ならないような形で実施していきたいと考えています。

もう1つ、手話のお話ですが、公民館で実際に手話教室をやることになった場合は、令和8年度やってその後はやらないというのは全く意味がないと思っています。そもそも公民館の講座というのは、講座を通じてサークルを育て、地域の方に主体的に活動していただく土台作りというのが基本と考えていますので、公民館でやるとなれば最初は講座で希望の方に集まっていたら、その中から皆さんでサークルを作って、公民館で定期的な活動をしていただき、最終的にはその団体さんが自分達で走っていけるような形にしなければいけないと考えていますので、当然3年、5年、もっと長くやるような形になるかと思っています。実際にどこでどういう形で市民の皆さんに手話を学んでいただくかというのは、公民館単独ではなく、様々な団体と協議しながら、1回やったら終わりにならないような、継続して学べる形で実施できたらと考えています。

○田中副議長

手話教室を講座から始めて、自主クラブになって何年間か継続してもらったら、和光市ってすごいなと思われると思うんですよね。あまり譲り合いの精神であっちこっちと言わないで、公民館で自主的に一つの事業として育ててくれたら最高に私は嬉しいなと思います。他にご意見がないようですので、次に進みます。

第2期和光市教育振興基本計画及び令和8年度和光市教育行政アクションプラン（案）について事務局から説明をお願いします。

○生涯学習課長

第2期和光市教育振興基本計画及び令和8年度和光市教育行政アクションプラン（案）の概要と公民館に関する部分の説明

○田中副議長

今日はせっかく先生がお見えになっていますので、今の説明で、アクションプランもそうですが、不登校の子たちの居場所作りということが出てきてい

ますが、公民館ではどういう居場所を作るのか、どういうふうにお考えですか。まずは人数から。最近多いと聞きますけれど。

○藤原委員

どの学校も数名。多い学校は20名、30名という状況の中で、どういう形の連携がいいのかなと。

○田中副議長

公民館でどのようにそういう子たちと向き合っていくというか、接点というか、すごく難しいなと思うんですけども。本当にその子たちを良くしてあげたいなという気持ちは山々であるんですけど。

○藤原委員

公民館との連携では、不登校のところの連携ではないけれども、一般で進めているところで、そこを広げていきたいなど。第1回の会議でも中央公民館長から、学校の子どもたちの成果物を飾る場に使っていいとか色々なお話をいただいたので、今年度2回、三小の子どもの成果物をこちらで一定期間飾っていただくことができ、来年度もこれを広げていきたいなど。他の学校でもきっとできることだろうなと思っています。不登校だけではないのですが、公民館では、あすなろ教室という、出張教室のような形でここに通って、不登校支援をやるということを実際にやっていただいています。ただ、認知度が低いのと、ニーズの掘り起こしがまだできていない。今不登校の子は家から出るのが課題。色々な人が来ている場所に来ることの難しさもある。不登校に限って言うと、なかなか連携は難しいというのが、個人的には思っているところです。ただそれ以外に、アスナル教室というのがあって、アスナルは経済的に困窮している家庭が、何らかの手立てを取ると、学校での授業についていきやすくなる。特に中学生にすごく効果があるように聞いていて、学校現場では非常に助かっている状況です。不登校は、学校現場ではすごく困っているけれども、様々な手立ては取っているというところ。今いい考えをもらったなと思うのは、不登校を支援して下さるところ、連携して下さるところがいくつかあるけれども、その中の一つに公民館を加えて考えていくという考え方も必要なんだろうと強く感じました。

○稲津委員

不登校についてですが、皆さんはここでやっているあすなろ教室を覗いてみたことはありますか。はっきり言ってとても入りにくい雰囲気です。私が関わっている打合せや会議でもよく不登校について話が出るので、別の用事で来た時に、一度見学してみたいなと思ってちょっと覗いたんです。先生たちには申し訳ないのですが、家から出れない子どもたちを出すためにこちらに来て、ちょっとお勉強だったり、世間話だったり、色々する機会の場所なんだろうけれども、とても部屋に入れるような雰囲気ではないなというのを私は感じました。何か月かしてまたちょっと覗いてみても誰もいません。何回か覗いてみましたが、誰もいません。これは中央公民館のことであって、他のところはわからないのですが、不登校の子たちに関しては、もちろん地域

が関わってできるだけ支援できればいいのですが、繊細なことなので各学校で色々な対策対処されてると思うんですね。でもなかなか私たち地域住民が不登校に対して、上から言われれば活動できる範囲はお手伝いはしたいと思いますが、なかなかこちらの方からは、というのはあります。

○田中副議長

私自身も子育てしている身として、そういう子がいらっしやるとそのことだけで悲しくなるというか。何とかしてお手伝いできたらと思うのですが、どういう関わり方をしているのかはわかりません。でも放っておけないと思います。ここに不登校について書いてあるので、どういうふうに学校も公民館も考えているのかなと聞いてみました。

○教育長

不登校につきましては、子どもたちの状態は10人いたら10人違う。100人いたら100人違う。なのでこのやり方はいいというのがあるわけではなくて、一人一人の子どもたちに対してどういう対応が一番その子に合うかというところ。そうすると、例えば学校の限られた教員の人数の中でその全てに対応できるかということ、もちろん教員は授業をしなければなりませんから、その授業以外の時間をその子のことを考えて様々な対応をしてくれるのですがやはりそれも難しさが出てきてしまう。現在学校の方に名称は学校によって違うが、スペシャルサポートルームという、これは国が作っている名称で、市内は学校ごとにそれぞれ名前を付けているが、そこに教員資格があれば一番いいが、そうでない方もいるけれど、その方を置いて、教室には行けないがそこでなら勉強できる子どもたちが勉強できる環境を作っている。全部ではなく順次作っている。ところが、そこに行くことも難しいという子どもたちが、たまたま休日に公民館で友達と遊んでるという状況が我々の耳に入ってきたので、だから学校以外の場所でも何か子どもたちがここに行けば自分の居場所が作れるという場所を作りたいということで、公民館の出張適応指導教室というのをやってきたのですが、実際にはかなり難しかった。難しかったので昨年教育委員会の職員で色々なところの適応指導教室の様子を見に行きました。結果やはり稲津委員が言われたように、子どもたちが来づらいといったような環境では難しいこと、もっと柔らかく最初はソファに寝そべっているような状況のところもありました。また色々な子どもたちが興味を引くような物が置かれているところもありました。そういうところを含めて次年度ここにも書いてはいるのですが教育支援センターをバージョンアップしながら、出張適応指導教室についても、どういった方法だったら子どもたちが来れるか探りながら進めていこうと考えております。ただ、一番大事だと思っているのは、先ほど申し上げた通り100人なら100通りの対応があるのでその子どもたちに合わせた間口をできるだけ広げてあげるというのが大事だと我々は考えていて、公民館では子供を受け入れるだけではなくて、その子どもたちの保護者を支えるようなイベントを組んだり講座をしたりということを進めることで取り組んでいこうと思っています。まだまだ計画の途中ではあるので上手くいかないところも出てくると思うのですがそのこと

ころを皆さんのご意見をいただきながら進めていけたらと思っていますので、ご理解いただけたらと思っています。

○田中副議長

本当に多方面からやらないとダメなんですね。まだやり始めたばかりということで、ぜひ和光市でそういう子どもたちに愛を持って接することができたら最高だなと思います。

生涯学習についてはアクションプランの1ページ、和光市教育振興基本計画の基本理念、「生涯にわたる自発的な学びと、豊かで健やかな人生の実現を支援する教育」というのが出ていて、私は本当にそうだと思います。学生時代にできなかったことを公民館でもう一度学習できる。それが生涯学習だと思います。その学びによって色々な人がその場所に集まって知らない人同士でまたそこから繋がりができていってどんどん広がっていくのが公民館だと思います。

○森田委員

私が公民館活動を始めたのは、高校の時に古典という教科があって、古文、漢文を習ったんです。その時に興味を持って、50代になった時にもう一度やってみたいと思って、詩吟の会に入りました。そしたらもっと突き詰めて、これはどういうことを言っているんだろう、どんな感情で言っているかというのを教えていただいてそれに節をつけてやるというのを習いました。だから高校時代にすごく興味を持ったことが50代になって初めて、ああこういうことか、というのが分かってそれで自分なりに納得して、20何年続いている。生涯学習ってそんなものかなという感じを持っている。いまだに止めようという気はないです。

○高野委員

各学校に特別支援学級ってありますよね。他の市から頼まれて月1回くらい手作りの作品や食べ物など、一切勉強に関係ないものを教えに行っていた。その子たちが卒業する時に私に礼状をくれたんです。私は、あんなことでお手紙くれるんだとびっくりしました。子どもたちの手紙にはありがとうとか楽しかったとか書いてあり、こちらが涙が出そうなくらい嬉しかった。そういうことを喜んでくれるんだなと思いました。

○田中副議長

支援学級は、私も書初めを教えに行っていて、1年に1度生徒さんとお会いするだけだけど、また来てくれた、とかすごい喜んでくれました。支援学級の人たちとなかなか触れ合えないけれど、本当に優しくて純真だと感じます。これが教育じゃないかなと思うので、教育長さんよろしくお願ひします。

他に何かご質問がありましたらお願いします。

○川口委員

基本計画63ページの社会教育施設の充実のところではWi-Fiの整備があがっていますが、オープンローミングでないともはや災害に対応できないということで、他の自治体の公民館でいうと、姫路市や国分寺市が公民館でもオープンローミングのWi-Fiを取り入れている。公民館や社会教育施設でオープンローミングでないといけない。有事の時、災害が起きた時に繋がる和光市ということで対応していかないと、例えばA公民館からB公民館に移動した時にまたWi-Fiを設定し直さないといけないというところでタイムラグが発生する。時間を取られる。もう一つは子どもたちが最近ではスマートフォンを持っていると思うが、その中でサイバーセキュリティの関係で、ここのWi-Fi使っていると安心だよということ、1回登録しておくとも他の公民館でも自動で使えるというためには、オープンローミングである必要があると思うので、公民館としてオープンローミングでないといけないと言っただけで他の住民の方に対して貢献できるのではないかと思います。

○南公民館長

各館Wi-Fiの設置はしているが、館内全体を網羅しているわけではない。計画ではWi-Fi導入等を進めていきますとあり、基本的には各館どこでも使えることを目指してはいるが、予算のこともあるので、計画的に進めていけたらというところ。その時にオープンローミングを頭に入れながら考えていきたいと思います。

○川口委員

旧型はこの場所に対してこのWi-Fiという1個1個のもの。オープンローミングは1回設定すると市内は全部繋がるという状態になっていくので、どこに行っても繋がる。ただこれは公民館だけの話ではないと思うので、逆に公民館が避難場所になるという視点で言っただきたいと思う。

○田中副議長

他にご質問がないようでしたら次に進みます。  
館内飲食について事務局から説明してください。

○事務局

中央公民館長から和光市公民館での飲食ルールについての説明

○田中副議長

次に進みます。公民館で初めて取り組んだ・計画した講座やイベント等について事務局から説明をお願いします。

○事務局

中央公民館→坂下公民館→南公民館の順に説明

○田中副議長

三館それぞれ特徴があって私はいいと思いました。これからもぜひ続けていってほしいと思います。このことについてご質問がありましたらお願いします。

○岸委員

坂下公民館の子育てサロンですが、12月だけ極端に人数が多いのは何か理由がありますか。

○坂下公民館長

12月ですのでクリスマスコンサートという形で音楽祭をやりました。普段よりイベントという形を取りましたので、今まで参加されていた方たちを含め特に多く集まりました。

○近藤委員

坂下公民館の子育てサロンと子育てサポーター養成講座についてですが、気になったのがファミサポの養成講座とは違うということをもう少ししっかり打ち出さないと。子育て世帯に向けた有償ボランティアのファミサポというのがあって、支援する側になるにはファミサポの研修を受けないと登録できないという流れがあります。坂下の「子育てサポーター養成講座」という名前だと、ファミサポのサポート会員の養成講座と間違えられやすいのではないかと、公民館の講座を受ければファミサポの支援ができると思われると困ると思います。そこはしっかり分けないと。ファミサポは有償ボランティアで、サポーターはたぶんボランティアだと思うのでそこが気になりました。

○坂下公民館長

ファミサポとも連絡を取り合って、違いを明確にしていきたいと思います。情報提供ありがとうございます。こちらに関しては今回初めての講座ということで、内容についてはこれから一から作っていくことになります。「坂下公民館で行う子育てサロン」に参加してみたいと思っていただける講座を目指していきたいと思っています。

○田中副議長

子育てがひと段落したお母さんたちが、余裕があれば小さい子をまた見てあげようといった感じですね。  
他に質問ないようですので、次に進みます。  
今回は今年度最後の会議になりますので、これからの公民館はどうあるべきか、委員の皆様にはご意見やご提案などいただきたいと思います。  
どなたかご意見ありますか。

○藤原委員

認知度を上げる中で、公民館で何ができるのかというのが色々なものを見ないとわからない。例えば、中央公民館でやっても、社会福祉協議会主催のものは、中央公民館の事業計画等には出ていない。またこんなサークルがありますよというのは、どこかには出ていると思うが、それを見ないとわからない。中央公民館で何ができるのかというのが、これを見たらわかるというものがあるとすごくありがたいと思いました。また、特に宣伝して欲しいものがあれば、学校に持ってきてもらって、せっかくだから本校の子どもたちも楽しんでもらいたくて実際宣伝したこともある。そういうことが双方にできるといいなと。私も今回そうすべきだなと思ったのは、学校で地域リーダーを探す時に我々は二中学区なので稲津委員にお願いする。お願いしてすぐに見つかる時もあるしなかなかという時もある。それを中央公民館長に聞けば、出入りしてるサークルさんを紹介してもらえらることもあるだろうなと思った。学校側、つまり連携する側も考えていけないこともあるだろうし、私の役割としては、和光市の校長会を代表し

て来ているので、こういうようなことで連携していくとより深い連携ができますよということを校長会の中で議論していくのもすごく大事ななと思えました。これからの公民館活動がどうあるべきかという、公民館側からもそうだけど学校側からあるいは地域からの努力というものも必要だと強く感じました。

○田中副議長

公民館のトップは教育委員会。学校もそうですね。だけど一同に集まることはなかなかない。もっと広く連携していけたらいいと思います。人材探しはなかなか大変ですね。

○稲津委員

中央公民館長に色々お手伝いしていただくことがあります。こういう人材いませんかと聞くと、こんな方がいますよとおっしゃっていただいて、公民館サークルの方たちに学校の支援など協力していただいています。

○中央公民館長

先日三小の6年生の皆さんに公民館見学に来ていただき、最後に私の方から、お子さんたちに公民館や市内でやっているイベントの情報はどういうふうに手に入れてるのか聞いたところ、学校からの手紙だと。さくら連絡網を見てるか聞いたら親が興味ないと何も言ってくれないと。やはりご家庭によっては、親御さんが取捨選択してしまって、実際お子さんが行きたいと思っても情報が届かないという、お子さんからの直接のご意見をいただいて、紙、ポスターの重要性も改めて認識したので、お子さん向けの事業については、アナログ的なものであっても、お子さんに一番届くのはそういうものなんだなと。SNSやインターネットというお子さんもいたけれど、ほとんどは学校からもらう手紙で、それで友達とじゃあ行こうかという感じで行くと。今までさくら連絡網に頼ることが多かったので、子ども向けのものは特に周知の仕方を改めて見直す必要があるかなと思えました。

○田中副議長

ありがとうございます。各公民館におかれましては、次年度に向け、また、何よりこれからあるべき公民館の姿に向け、委員の皆様からいただいた意見などは、しっかり検討していただきたいと思います。次に進みます。事務局から連絡事項がありましたらお願いします。

#### 4 連絡事項

○事務局

シティプロモーション特設サイト「WA-COLLE」の説明

今年度の公民館運営審議会につきましては今回3回目で終了となります。次回令和8年度についてはまだ未定ですが、7月頃開催させていただこうと考えています。細かい日程については皆様と調整させていただきます。まずは4月に今回の会議録の確認でご連絡させていただきます。

## 5 閉会

○田中副議長

それでは、本日の審議内容はすべて終了いたしました。  
これを持ちまして、令和7年度第3回公民館運営審議会を終了いたします。  
ありがとうございました。